

## 編集後記

『摂南大学教育学研究』第12号ができあがりましたので、お届けいたします。

年々、教職支援センターの教員としての業務が多忙になるなか、本号も発行までには多難を要しましたが、ここまで毎年、継続的に発行してこられたことに感慨を覚えます。本号の編集幹事は数年ぶりに朝日が務めました。本誌の創刊から関わってきたのが今や本センターの教員のなかでは朝日のみとなってしまったことも、感慨を覚える理由のひとつとなっています。

昨年度（2014年度）末を以て村田俊明教授が退職され、今年度からは新たに二名の教員を本センターに迎え入れました。その一人、林茂樹先生は、教育社会学をご専門とされ、本学では「特別活動の理論と方法」「教育方法論」などの科目を担当していただいています。本号にも学級の社会的な分析の知見を寄せてくださいました。もう一人の小山裕樹先生は、ご専門は教育哲学で、本号に論文を掲載することはできませんでしたが、編集委員として関わっていただきました。

今年度は教員養成に関わる大きな改革の方向性が示され、私たちの日々の教育実践の内実にも変革が求められることとなります。実践と省察を交互に重ね、その成果を今後の『摂南大学教育学研究』にも著しながらこれを充実、発展させてまいりたいと思います。ひきつづき皆様のご理解・ご助力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

編集委員・幹事 朝日 素明